



所沢市長 小野塚 勝俊氏

市長のメッセージ

所沢市は、「埼玉西武ライオンズ」、「さいたまブロンコス」のホームタウンであり、日本最大級のポップカルチャーの発信拠点である「ところざわサクラタウン」のほか、「となりのトトロ」の舞台のモデルとされる狭山丘陵、日本で最初に飛行場が作られた場所である所沢航空記念公園など豊かな自然にも恵まれ、鉄道や高速道路へのアクセスも格段に良い、あれもこれもある、市民・事業者の皆様の「可能性が広がるまち」です。

さらに、皆様の可能性をもっと広げるため、所沢市は、2030年4月に中核市への移行を目指しており、今後とも引き続き、『可能性が広がるまち日本一』を目指してまいります。

はじめに

所沢市は、都心から30キロ圏内に位置しながらも、武蔵野の面影が残る、自然と暮らしやすさが共存するまちである。

市の玄関口となる所沢駅は、西武池袋線と西武新宿線の2路線が通り、東京都心や横浜まで乗り換えなしで行くことができるなど、通勤・通学の利便性が高い。2024年には所沢駅近くに新たな大型商業施設がオープンし、駅周辺は市内外からの買い物客でにぎわうなど、活気に満ちている。

所沢市は、日本で最初に飛行場ができた航空発祥の地として知られる。かつての飛行場は現在、所沢航空記念公園（表紙写真）として市民の憩いの場となっている。

市内には、「となりのトトロ」の舞台のモデルとされる狭山丘陵や狭山湖など、豊かな自然が今なお残っている。四季折々の景色を楽しむため、外国の方も含め、多くの方々が訪れている。

スポーツや文化も盛んだ。プロ野球チームの「埼玉西武ライオンズ」やプロバスケットボールチームの「さいたまブロンコス」が市内に本拠地を置いている。また、「ところざわサクラタウン」は、アニメや漫画など、日本のポップカルチャーの魅力を発信する拠点として、世界中から多くの人々が訪れている。

農業も盛んで、狭山茶や里芋、にんじん、ほうれん草などが特産品として知られる。市内には今でも多くの茶畑が広がっている。

産業団地を整備中

所沢市は、「都市計画マスタープラン」に基づいて「都市拠点」・「行政拠点」・「交流拠点」・「産業拠点」の形成を目指している。

「産業拠点」については、地域の活性化や雇用の創出を図るため、交通利便性の高い3カ所の整備を計画している。そのうち、所沢市西部に位置する三ヶ島工業団地周辺地区の整備が先行して進められており、土地区画整理事業により、周辺の道路整備と併せて拡張され、新たな産業団地として2029年度内に完成する予定だ。

三ヶ島工業団地周辺地区は国道16号から1.0km、圏央道入間ICから1.5kmの距離にある。2015年の圏央道埼玉県内全通後は、東日本各地への交通アクセスの良さから、製造業や物流業での沿線地域への進出ニーズが急速に高まった。市では東部に位置する所沢IC周辺地区でも産業団地創設の検討を進めており、今後の動向が注目される。



産業団地として整備中の三ヶ島工業団地周辺地区

所沢市概要

人口(2026年1月31日現在)	342,382人
世帯数(同上)	172,766世帯
平均年齢(2025年1月1日現在)	48.2歳
面積	72.11km ²
製造業事業所数(経済構造実態調査)	313所
製造品出荷額等(同上)	1,902.9億円
卸・小売業事業所数(経済センサス)	1,753店
商品販売額(同上)	5,230.4億円
公共下水道普及率	95.2%
舗装率	80.8%

資料:「令和6年埼玉県統計年鑑」ほか



主な交通機関

- JR武蔵野線 東所沢駅
西武新宿線 所沢駅、航空公園駅、新所沢駅
西武池袋線 所沢駅、秋津駅、西所沢駅、小手指駅、狭山ヶ丘駅
西武狭山線 西所沢駅、下山口駅、西武球場前駅
西武山口線 西武球場前駅、西武園ゆうえんち駅
- 関越自動車道 所沢ICから市役所まで約7km
圏央道 入間ICから市役所まで約12km

☀️ こどもを中心としたまちづくりを最優先に

所沢市は市の総合計画において、「こどもを中心としたまちづくり」を優先的なプロジェクトの中心に位置づけている。すべてのこどもたちが元気に成長できる環境を地域全体で支え、誰もが「住みたい、住み続けたい」と思うまちづくりを目指している。

プロジェクトの具体策として、「小・中学校の給食費無料化」や「18歳までの医療費無料化」などの取り組みのほか、妊娠期から子育て期までの切れ目ない相談対応をする「こども家庭センター」を設置するなどし、子育てにかかる経済的および精神的負担・不安の軽減を図っている。

こどもや若者が自分らしく安心して過ごせるよう、居場所づくりも進行中だ。市内11カ所の児童館には「トコハピ」という愛称をつけ、中高生の利用拡大を図っている。市の公式LINE「所沢市こども・若者情報チャンネル」には1万人以上の若者が友だち登録しており、イベントや地域のボランティア情報をLINEで



気軽に相談できるこども家庭センター

配信することで、若者が地域の人と触れ合う機会を作っている。

こうした取り組みを通じて、子育てする親やこども、若者一人ひとりが幸せを感じられるまちの実現を目指している。

☀️ 2030年の中核市移行を目指して

所沢市は昨年、市制施行75周年を迎えた。市は市制施行80周年となる2030年を目指して中核市へ移行する準備を進めている。昨年2月には移行を円滑に進めるための「中核市移行に関する基本方針」を策定した。

中核市とは、人口20万人以上などの要件を満たし、都道府県から保健所設置など、2,000以上の行政権限が移譲される市のことである。中核市への移行により、市は市民のニーズや地域課題に迅速かつ的確に対応できるようになり、市民にとっては身近で質の高い行政サービスを受けることが期待される。

所沢市は日本で最初に保健所が作られた「保健所発祥の地」である。公衆衛生の技術者養成機関として1937年に市内に設けられた「農村保健館」が保健所の先駆けとされる。現在は、埼玉県が設置する狭山保健所に統合されている。

市は所沢航空記念公園北側に新たな保健所の設置を計画しており、2030年4月の開所を予定している。中核市への移行により、20年ぶりに市内に保健所が復活する見込みだ。

(太田富雄)